

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

委員会名	批評と理論小委員会	主 査 名：磯崎 新
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：陣内秀信
設 置 期 間	2004 年 4 月 ~ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの成果をもとにしながら、連続シンポジウムの取りまとめと出版の検討を進める。 ・また技術と歴史の研究と連携を図りつつ、モダンムーブメントの歴史性を検証しつづける 	
委員構成 (委員名(所属))	磯崎新((株)磯崎新アトリエ)、鈴木博之(東京大学大学院工学系研究科建築学専攻)、藤森照信(東京大学生産技術研究所第5部)、杉本俊多(広島大学大学院工学研究科社会環境システム専攻)、上松佑二(東海大学建築学科)、隈研吾((株)隈研吾建築都市設計事務所)、中谷礼二(大阪市立大学工学部建築学科)、石山修武(早稲田大学理工学部建築学科)、五十嵐太郎(中部大学工学部建築学科)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2003 年度予算	230,000円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	<ul style="list-style-type: none"> ・2000年以來のシンポジウム活動検証し、新たに磯崎新、鈴木博之、石山修武士での研究会議を行い、その記録を取りまとめて刊行する作業を行った。 ・来年度以降の体制を整え、主査を鈴木博之として、今までの作業を継続し発展させる作業に着手している。 ・成果の刊行は2005年1月になされた。(市販の出版物とすることができた)
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>これまでの公開シンポジウムの成果の報告はすでに行われているが、さらに広く社会に還元するための方法を検討した。</p> <p>小委員会委員の個別的活動は継続されているので、それらを総合的に一体化して、社会還元を行う手法をとるべきであるという結論を得た。</p> <p>具体的には一般書の出版社からの刊行が行われた。その結果は好評で、2005年に再び公開のシンポジウム形式の活動を行う企画が進んでいる。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>成果の公表(刊行)がなされ、さらに2005年度における活動の計画が定まったことから、極めて満足すべき活動の成果を上げたと考えられる。</p> <p>今後の発展をさらに計画したい。</p>
その他評価すべき事項	<p>これまでの活動が大きな反響を呼んだことは、委員会として満足すべきものである。さらに一般社会への還元を求めて、その方策を考えてゆきたい。</p>